

# 紀文まっりの軌跡

有田を代表する夏の夜の風物詩、紀文まつり。  
 毎年恒例となっていますが、始まった当時は11月開催だったことをご存知ですか？  
 時代とともに変化してきた紀文まつりを今一度ふりかえってみましょう。



梵天丸のパレード

**紀文まっりの歴史**  
 「紀文まつり」が始まったのは昭和54年11月。有田市に恒久的な市民祭りをつくろうという声を受けて、誕生しました。江戸時代、有田みかんを江戸に運んだと伝えられる紀伊国屋文左衛門「にちなみ「紀文まつり」と命名されました。また、紀文がみかんを積んだという船「梵天丸」を復元。有田川に係留して、お祭りムードを盛り上げました。  
 紀文まつりが始まった昭和54年は箕島高等学校野球部が甲子園で春夏連覇を成し遂げた年でもありました。市内全域にも明るい雰囲気の中で紀文まつりは大成功をおさめました。  
 当時は紀文まつりの前夜祭で「紀文カラオケ大会」を開き、当日は3隻の梵天

**市民のまつりになって**  
 紀文まつりで花火が打ち上げられるようになった平成2年から、25年間交通整理を行っている交通指導員の内原信次さんにお話をしました。  
 有田市にとって紀文まつりは「有田市の目玉行事で、地域活性にとっていいことだ」と思っています。

丸を中心に時代絵巻の仮装行列、紀文踊りなどを行っています。  
 そして平成2年（第11回）から地域住民に愛される、親しまれる市民総参加の祭りを目指して、夏を催時期とする「紀文夏まつり」として新たに始められました。催しもの中心が花火となり、子ども御輿が行われたり、園児のお遊戯や、景品付きのもちなどが行われ、毎年趣向をこらし、現在へと続いています。



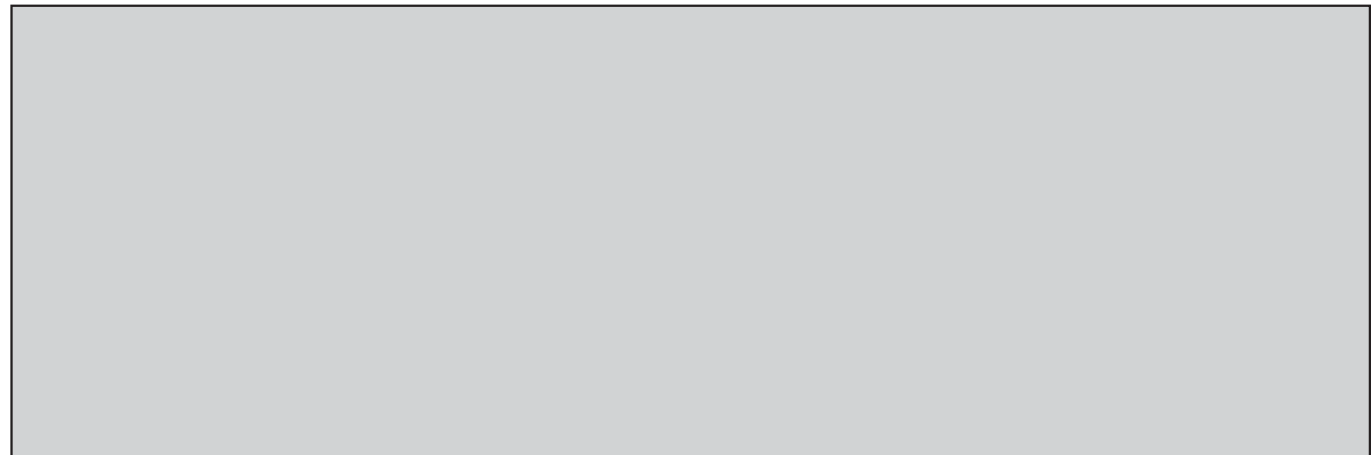
紀文踊り

時代とともに、祭りの内容は変わっても、市民にとって夏の一大イベントであることに今も昔も変わりありません。今年も8月8日（土）に開催が決定。みんなで盛り上げていきましょう。

「初めて紀文まつりの交通指導を行ったときのことを聞かせてください。」  
 当時は梵天丸のパレードを行っており、パレードのために市役所から現在の三菱電線工業まで梵天丸を移動させる警備をしました。  
 「どんな場面でやりがいを感じますか？」  
 「毎年こくろうさん」と声をかけていただくことですね。  
 「長年続けられているモチベーションは何ですか？」  
 市民総参加を目指す祭りとして、こつやって長年交通指導という立場で参加でき、うれしいです。やっぱり好きだから続けたいですね。  
 今後も紀文まつりがずっと続いていくことを願っています。



広告



龍谷大学生 持ち込み企画

# 有田市 縁側発見新聞 No.03

このコーナーは、地域の課題解決について研究している龍谷大学政策学部の学生のみなさんが取材しました。有田市でのフィールドワークなどの活動を通じて感じた「縁側」の魅力を多くの人に伝えるため5月号より始まったこのコーナーも3回目を迎えます。

（「縁側」には、「ホッとできる自分の居場所」という意味が込められています。）  
 今回は、5月4日（月・祝）に箕島漁港で行われたイベント、「お魚勉強会」にお邪魔し、たくさんの家族連れで賑わう中、1組のご家族にお話を伺いました。

5月に箕島漁港でお魚勉強会が催され、園児や家族連れが多く賑わっていた。美味しい焼きそばやたこ焼き、イカの串焼きなどたくさん親子が仲良く食事をしている中、私たちは上田さん御一家に声をかけさせていただいた。  
 上田さん御一家にとつての縁側は有田市糸我町にある中将姫の寺で有名な「得生寺」というところだ。紘平さんは糸我町で生まれ育ち、現在もここに住んでいる。「子どもの頃は、この得生寺でよく遊び、この敷地内にある赤い橋の周りで皆で色々な遊びをした。」と紘平さんは言う。また、お寺の中では習字の習



お魚勉強会に家族で参加していた上田さん御一家

上田 紘平さん(右上)・敦美さん(左上) 美麗さん(左下)・一航さん(右下)

糸我町在住

い事もしていたそうで、子どもの頃の紘平さんにとつて得生寺は遊びと学びの両方を得られる場所であった。また、中将姫の命日にちなんで毎年5月14日に得生寺で式が行われている。紘平さんが小さい頃から親しむ会式に今では家族で参加している。娘の美麗さんは金色の菩薩の面と小道具をつけて二十五菩薩練供養に参加したことがあった。こうやって紘平さんが小さい頃から親しんでいた場所が



得生寺境内にある赤い橋

取材後、実際に得生寺を訪れ、赤い橋を見ました。紘平さんが小さい頃に遊んでいたときのことを連想し、自分たちも子どもの視線になって、「私だったらこんな遊びをしたいな」と楽しい気持ちでお寺全体を見るのが出来ました。紘平さんはじめご家族のみなさん、ありがとうございます。



左から順に 仁木貴康・宮田 澤・坂元弘輝 猪尾雪乃・鳥本真帆・良元雪華

取材を終えて・・・

今では家族で訪れたり子どもたちが遊んだり学んだりする場所となり、家族みんなの思い出がたくさん詰まった素敵な場所へと変化している。これから上田さん家族の心の中にどんな思い出が増えていくのか楽しみである。

思いをつなぐ場所

広告

